

研究ノート

イギリス新聞史研究の資料について

—ビブリオグラフィーを中心に—

芝 田 正 夫

1. はじめに

イギリス新聞史は1620年代の各種のコラントやニューズブックをその起点とし、清教徒革命期の王党派と議会派の新聞を経て、1695年の特許法廃止によってそれまでの特許制と検閲制による新聞の統制は姿を消し、その後18世紀を通して量的質的両面での発展をとげる。やがて1855年のスタンプ税廃止以降、大量の発行部数をもつ大衆新聞が登場するに至った。こうした経過をもったイギリス新聞史は「近代新聞の母国のひとつ」として、イギリスはもとより各国で様々な角度から研究が進められてきた。日本においてもはやくから紹介が行われてきたが、研究の基礎資料となる関連文献の目録やイギリスでは早い時期から編纂されてきた新聞のリスト（ビブリオグラフィー）の紹介はほとんどなされてこなかったのが現状である。

新聞史研究の基礎資料としては、

1. 刊行された新聞のリスト（ビブリオグラフィー）と所蔵に関するデータ
2. 現存する過去の新聞
3. 新聞発行者など関係者の伝記や回想録
4. 新聞史に関係する各種の文書類
5. 発行部数などの把握に必要な統計資料
6. 新聞史研究に関する文献目録

などが考えられるが、本稿では、こうしたイギリス新聞史研究の基礎資料のなかで、文献目録（書誌）と新聞のリスト（ビブリオグラフィー）というもっとも基礎的な資料について紹介をおこない、今後の研究のための資料面での整理を目的としたい。

2. イギリス新聞史に関する書誌

新聞史に限らずイギリス新聞研究全体に関する書誌として次のものがある。

David Linton & Ray Boston (eds.), *The newspaper press in Britain*, Mansell Publishing, 1987

2900点におよび多様な領域の図書・雑誌論文からパンフレット類まで紹介し、19世紀に刊行された文献も多く含まれている。巻末に「イギリス新聞史年表1476-1986」が収録されている。ちなみに1476年とはカクストン（William Caxton）がウエストミンスターでイギリス最初の活字印刷を開始した年である。収録されている文献のうち歴史関係として索引に記載されているのは、通史的なものが34点、17世紀以前に関係した文献が16点、17世紀関係が36点、18世紀に時代を限定したものが41点、19世紀の関するものが50点、20世紀の歴史が45点となっている。これら以外にも別の項目（たとえば地方紙など）に分類されている歴史研究関係の文献もあり、以上の220 タイトルのみが歴史研究関係の文献とはいえないとしても、全体の10%弱が歴史関係ということになる。

Katherine Kirtley Weed & Richmond Pugh Bond, *Studies of British newspapers and periodicals from their beginning to 1800: a bibliography*, University of North Carolina Press, 1946

2000点あまりのイギリス新聞史関連の文献リストであり、雑誌文献も広く収録し一部は外国の文献も含んでいる。Studies in Philology のシリーズとして刊行された。イギリス新聞史研究は19世紀中期より多くの文献を生み出しており、そうした過去の文献を知るのに適した文献目録である。

巻末に著者索引が付けられている。

G.Boyce, J. Curran, P. Wingate, (eds.), *Newspaper history : from the seventeenth century to the present day*, Constable, 1978

イギリス新聞史の研究図書のものには参考文献リストが掲載されているが、なかでも上記の図書は、イギリス新聞史の通史と問題別の論考を収めた論集であり、巻末に詳細な書誌および年表が付されている。年表は先のリントンとボストンのものの方が詳しい。

3. 新聞のリスト (ビブリオグラフィー)

(1) 時代を特定しないビブリオグラフィー

新聞史研究には実際に発行された新聞のリストが欠かせない。イギリス国内外の図書館に所蔵されている新聞コレクションを基礎資料としたリストづくりが20世紀の初期よりはじまり、これまでに多くのリストが作成されてきた。多くの場合、新聞と雑誌をあわせて収録している。これはとくに新聞の草創期においては、新聞と雑誌を明確に区別することができなかったためである。1620年代のコラント以来20世紀初期までの時期をカバーした網羅的なリストの代表的なものとして次のリストがある。

The Times, *Tercentenary handlist of English & Welsh newspapers, magazines and reviews 1620-1920*, The Times, 1920

これはマディマン (J. G. Muddiman) が中心となって編集したリストで、英語で印刷された最古のコラントの発行を1620年として、1920年までの300年間に刊行された新聞と雑誌を収録している。基礎となった新聞コレクションは、大英博物館が1818年に購入したバーニー・コレクション (Charles Burney が収集したコレクション) やオクスフォード大学ボードリアン図書館の所蔵資料などである。内容については、発行当時にクレイン (R. Crane) とケイ (F. Kaye) がその正確さについて厳しい批判をしているが、「スタンダードな典拠」(Linton & Boston) との評価を受けている。内容は、1部と2部に分かれ、1部はロンドンおよびその郊外で刊行された新聞・雑誌、2部は地方紙となっている。基本的には現物が残ってい

る新聞や雑誌の包括的なリストである。各号についてその所在機関も記載されている。各年ごとにその年に創刊された新聞と雑誌が掲載されているリストであり、その新聞・雑誌がいつまで継続していたかもわかる仕組みになっている。

Susan M. Cox & Janice L. Budeit (compiled), *Early English newspapers : bibliography and guide to the microfilm collection*, Research Publications, 1983

バーニー・コレクションとニコルス・コレクション (John Nicholls が収集したコレクション。ボードリアン図書館が1865年に購入した) を基礎に、17~18世紀のイギリスで刊行された新聞の包括的なマイクロフィルム化が進められているが、このリストはその第1期 (ユニット1-24、約600タイトル) のリストであり、マイクロ化された新聞について刊行されていた期間などのデータを確認することができる。発行間隔や欠号のある年も表示されている。

アメリカの図書館に所蔵されているイギリス新聞を資料として作成されたリストとしてはつぎのものがある。

Ronald S. Crane & Frederick Benjamin Kaye, *A census of British newspapers and periodicals 1620-1800*, University of North Carolina Press, 1927

アメリカの図書館が所蔵しているこの時期のイギリス新聞970点のリストであり、60余りの大学図書館や専門図書館の所蔵資料が含まれている。各図書館がどの新聞の何号を所蔵しているかが確認できる。各年ごとにどの新聞が刊行されていたかがわかる索引および発行地別の索引が付されている。この書誌に特徴的なのは、第2部でアメリカの図書館が所蔵していないこの時期に刊行された1182点の新聞のリストが掲載されている点である。ここには主に地方紙があげられている。

またやや特殊なものとして、サラ (G. A. Sala) によって1882年に設立された「プレスクラブ」の所蔵している新聞のリストとして次のものがある。

Press Club, *Catalogue of an exhibition illustrating the history of the English newspapers through three centuries*, Press Club, 1932

1932年に開催されたプレス・クラブの展示会のパンフレットであり、クラブが所蔵しているすべての新聞を網羅しているわけではないが、展示された318点について解題が付されている。時代的は17世紀初期のコラントから20世紀初期までをカバーし、多くの地方紙も含まれている。

(2) 特定の時代の新聞に関するビブリオグラフィ

(1) のように時代を網羅的にあつかったものではないが、ある特定の時期に関するものとしては次のリストがある。まず17世紀初期のコラントに関するものである。

Folkes Dahl, *A Bibliography of English corantos and periodical newsbooks 1620-1642*, Bibliographical Society, 1952

この時期に刊行された400点あまりのコラントやニューズブックのリストである。このリストも大英博物館図書室のバーニー・コレクションを典拠にしており、これに加えてボードリアン図書館などの目録を参考にして作成された所在の明確なコラント類のリストある。詳細な注記が書かれている。

清教徒革命期 (Civil War) に書籍販売業者トマソン (George Thomason) が収集し、彼の死後に大英博物館に寄贈された当時のパンフレットやニューズブックのコレクションについては、次のリストが刊行されている。

British Museum, *Catalogue of the pamphlets, books, newspapers, and manuscripts relating to the Civil War, the Commonwealth, and Restoration, collected by George Thomason, 1640-1661*, 2 vols, British Museum, 1908

トマソンは自身も直接に政治に参画したが、彼は当時刊行されたほとんどすべての政治的なパンフレットやニューズブックを購入していたといわれている。1762年に大英博物館に寄贈され、トマソン・トラクト (Thomason Tract) と呼ばれるこのコレクションは約23,000点に及ぶ大コレクションである。1640年1月以降、年月順に刊行されたパンフレット類が収録されている。新聞については、1641年から63年のものが第2巻第2部で刊行年月ごとに整理され、極めて有用なデータとなっている。

17世紀後期に期間を限定したリストとしては次のものがある。

Carolyn Nelson & Matthew Seccombe (compiled), *British newspapers and periodicals 1641-1700*, The Modern Language Association of America, 1987

1641年から1700年の間に刊行された新聞および雑誌の包括的なリストである。主に英米の図書館が所蔵している700点に及ぶ新聞と雑誌が収録されており、各紙誌について、各号の発行日と号数、それに所蔵している図書館名を知ることができる。60年間という限られた時期だが、刊行された新聞の各号を確認するのに有用なリストである。巻末に1641年から1702年までの各年に刊行されていた新聞雑誌の年度別一覧と発行者別の索引が付けられている。現物が現存しない号については、発行日を推測し、番号をつけている。所蔵調査されている図書館は大英博物館のトマソンとバーニーの両コレクションはもとより、ハーバード大学やイェール大学などアメリカ・カナダの図書館も多く含まれ、総数で160館に達している。

スタンプ税をめぐって厳しい論争のあった時期である1830年から1836年までの期間、スタンプ税を払わないで刊行されていた (すなわち非合法の) 定期刊行物のリストとして次のものがある。

Joel Howard Wiener, *A descriptive finding list of unstamped British periodicals 1830-1836*, Bibliographical Society, 1970

週刊以上の頻度で出版されているものに限られているが、全部で562タイトルが収録されている。プアーマンズ・ガーディアン (*The Poor Man's Guardian*) など重要なものについては簡単な解題が書かれている。英国およびアメリカの図書館での所蔵状態もわかる。巻末に発行者の索引が付けられている。

(3) 地方紙のビブリオグラフィ

地方紙に限定したリストとしては克蘭フィールドとウィルズのもの代表的である。どちらも地方紙の確立期である17世紀初期から中期に時代を特定したものである。また、各州ごとの網羅的なリストも刊行中である。

Geoffrey Alan Cranfield, *A handlist of English provincial newspapers and periodicals 1700*

-1760, Bowes & Bowes, 1952 (Cambridge Bibliographical Society Monograph)

1700-1760年はイギリスで最初の地方紙が刊行され、また短時間に多くの町で発行されるに至った時期である。1952年の初版の後、著者自身による補遺が1956年に、さらに後述のウィルズによる補遺が1958年に発表され、1961年に改訂版が補遺を含めて同じ出版社から刊行されている。この期間に発行された地方紙（ロンドン以外の町で発行されていた新聞）のリストで、55の町の新聞が掲載されている。現存しているものはその所在（図書館など）が記載されている。現物が存在しないものについては、その証拠（例えばジェントルマンズ・マガジンなどの雑誌に引用されていることなど）を示して、刊行されていたことを推測している。

Roy McKeen Wiles, *Freshest advices : early provincial newspapers in England*, Ohio State University Press, 1965

この著作も1701年から1760年を対象としている。クランフィールドのリストを受けたかたちで書かれた著作であり、地方紙のリストもより詳しいものが（付録2）として提示されている。記述の方法はクランフィールドのものに似ており、各町ごとの刊行された地方紙の名前、刊行期間、所蔵している図書館などの機関名となっている。登録されている新聞は150紙で、クランフィールドのリストの約2倍に及んでいる。またこのリストにおいても、すでに現物は存在しないが過去の雑誌や新聞でその存在の記録されているものも多く登録されている

Charles Alpin Toase (gen ed), *Bibliography of British newspapers*, Library Association, 1975-

イギリスの各州 (county) ごとに、これまでに刊行が確認された地方紙の包括的なリストで、期間を問わずに収録されている。現地の公共図書館を中心に所蔵に関するデータも収められている。シリーズで刊行され、これまでに次の州のものが出ている。

Kent, Durham and Northumberland, Derbyshire, Nottinghamshire, Suffolk

4. おわりに

ここで紹介した書誌やリストはこれまでの多くの研究蓄積のうちの一部にすぎないが、研究の基礎資料として、実際に刊行された新聞のリスト作成が重視されてきたことがわかる。またそうした新聞を保存している図書館の所蔵状況も丹念に調べたリストも多い。最近の研究では所蔵調査の対象とする図書館の数を増加させようと努力している。たとえ現物の新聞が残ってなくても、当時の雑誌の記述や他の新聞に書かれている記録をもとに発行状況を推測しているのも歴史研究にとっては重要な仕事である。17~18世紀の新聞は保存状況に問題があるため、大規模なマイクロフィルム化の計画が進められていることも注目される。州ごとにこれまで刊行された新聞の包括的なリスト作成とマイクロ化の計画もあり、新聞の基礎資料の組織化はいっそう進められているといっただろう。